

令和5年度 第53回九州中学校バスケットボール競技大会

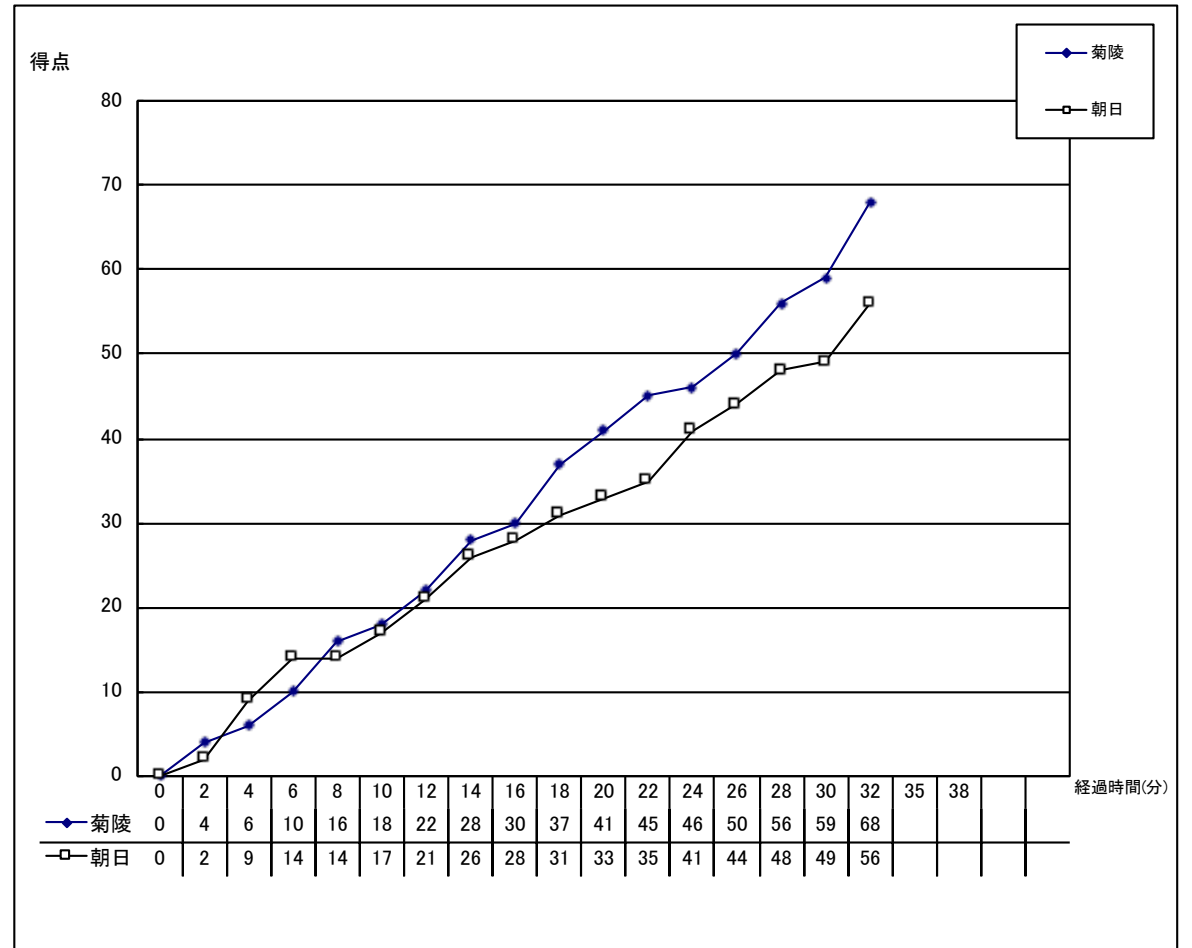
個人データ表

男子 1回戦	令和5年8月8日	14:00 開始
会場：益城町総合体育館	Dコート	第1試合
主審：林 剛大	副審：佐多裕樹 村上雄磨	

☆ 菊陵 福岡	68	<table border="1"> <tr><td>16</td><td>1 Q</td><td>14</td></tr> <tr><td>14</td><td>2 Q</td><td>14</td></tr> <tr><td>16</td><td>3 Q</td><td>13</td></tr> <tr><td>22</td><td>4 Q</td><td>15</td></tr> </table>	16	1 Q	14	14	2 Q	14	16	3 Q	13	22	4 Q	15	56	朝日 鹿児島
16	1 Q	14														
14	2 Q	14														
16	3 Q	13														
22	4 Q	15														

菊陵												
番号	氏名	得点	3P	3P試投	2P	2P試投	FT	FT試投	反則	DF.RE	OF.RE	RE計
○ 4	進 大地	13	1	1	5	12		2	1	2	1	3
5	坂本 理輝	6			3	3			1	4	1	5
○ 6	田尻 公平			2		1			1	1		1
○ 7	中村 宗太郎	11			5	14	1	2	3	3	3	6
○ 8	堀 結翔	1				1	1	4	4	3	4	7
9	市川 大椰	4			1	7	2	4	1	1	1	2
10	山内 琥太郎					1						
11	小堤 崇太					1			2			
○ 12	中山 彪牙	17		3	8	12	1	1	2	1	1	2
13	橋原 侑誠					1						
14	村田 流星	16	2	4	5	9			1	1		1
15	矢野晴輝											
16	古大内 雄陽											
17	高森 央											
18	竹縄 杏琉											
コーチ	扇山 龍之介											
合計		68	3	10	27	62	5	13	16	16	11	27
成功率			30.0%		43.5%		38.5%					

朝日												
番号	氏名	得点	3P	3P試投	2P	2P試投	FT	FT試投	反則	DF.RE	OF.RE	RE計
○ 4	富 啓翔	39	2	11	9	29	15	18		5		5
○ 5	隈元 良樹	7			3	9	1	4	2	4	5	9
6	得田 薪乃介											
○ 7	福島 幸太郎	2		2	1	6	2	2	1	3	1	4
8	安原 遼平											
9	碩 瑛大								1			
○ 10	久志 夏輝	8	2	3	1	3			3	6		6
11	森 鈴亜											
12	林 慶吾									1		1
13	森 陽斗								1	2		2
○ 14	森 俐穂									1		1
15	平井 秀磨											
16	蘇畑 彪雅											
17	濱田 駿輔											
18	上村 桜太											
コーチ	大久保 翼											
合計		56	4	16	14	47	16	24	8	22	6	28
成功率			25.0%		29.8%		66.7%					



《戦評》

1Q: 朝日、菊陵と共にハーコートマンツースタート。菊陵が#12のバックドアからのシュートで先制。朝日は、アイソレーションから#4がドライブでバスケットカウントを得る。さらに#4のリバウンドからのバスケットカウントで点差は5点差に。菊陵は、#7の速攻からのドライブとミドルシュートで1点差にする。朝日#4の1on1からジャンプシュートが2連続で決まり再び5点差に。菊陵は、セットプレーから#9が得点。さらに#7のドライブからファールを誘いフリースロー1本を沈め1点差にする。終了間際に菊陵#4が3Pを決め逆転したところで1Qが終了。

2Q: 菊陵は、#8が朝日#4に厳しいディフェンスでプレッシャーをかけるが、朝日#4が力で破り連続得点で逆転。しかし菊陵も#4のミドル#14の速攻からのドライブで連続得点し、朝日がたまたまタイムアウト。その後、一進一退の攻防が続く。菊陵は、朝日#4のドライブをヘルプディフェンスで守り得点を許さない。最後は、朝日#5がリバウンドで粘り得点し、点差を縮めるが菊陵が2点リードで前半終了。

3Q: 菊陵は、オールコートマンツースタートでプレッシャーをかける。菊陵#12の連続得点で広げるが、朝日#4のドライブからバスケットカウントで取り返す。しかし、菊陵#12#7#9が連続して得点し、点差はついに二桁に。お互いにディフェンスが厳しさを増しファールがかさみ、フリースローを与えるがお互いに落とす点差は縮まらない。3Q終了間際、朝日#4のフリースローとドライブが決まり菊陵5点リードで3Qを終える。

4Q: 朝日#4が3P決めるが菊陵はオールコートの厳しいディフェンスからボールを奪い、#4のミドル#12のドライブからの得点が決まり、8点差となったところで朝日がタイムアウト。朝日は、#4のドライブ#5への合わせでフリースローを得て点差を縮める。菊陵は、オフェンスリバウンドでチャンスを作り#14の連続3Pが決まり再び二桁に。タイムアウト後、朝日も#4の3Pのバスケットカウントを沈め9点差とするが、厳しいディフェンスから#14#4のシュートが連続して決まる。朝日も#7#4の3Pで逆転を狙うが決めきれず68-56で試合終了。最後まで自分たちのバスケットボールスタイルを貫き、お互いの技術の高さが発揮された素晴らしいゲームであった最後まで白熱した試合をした両チームに拍手を送りたい。

戦評記入者 荒川 龍治(熊本市立日吉中学校)